





「道民の森」とセッテの東京の企業によるリゾート開発構想が「時のアセス」の候補になつた

①肥料散布により  
水源を富栄養化させ、水を濁らせるおそれがある

は、約五百八十ヘクタールの用地にゴルフ場や神居尻山のスキー場、テニスコート、保健休養施設などのリゾート地区を二〇〇七年までに完成させる、という計画。横路孝弘・前知事が音頭を取った「民活導入」という名のリゾート誘致に応えて、同社が名乗りを上げものだ。当別町当局は、この事業をダメ

は、約五百八十ヘクタールの用地にゴルフ場や神居尻山のスキー場、テニスコート、保健休養施設などのリゾート地区を二〇〇七年までに完成させる、

道条例に基づく同計画の環境アセスメントに対し、道の審議会は九五年一月、「ダム湖の水質保全に万全を期すこと」などの付帯意見をつけて手続きを終了した。が、その後も石狩市などから利水者に対して水質保全を求める要望が「市民連絡会」から農水省などに對して保安林の指定解除に反対する要望が出されるなど、基本的な問題は何もクリアされていない。

事業者側は、「無農薬のゴルフ場で一部は人工芝で管理する」と説明しているが、「市民連絡会」などは、

は、約五百八十ヘクタールの用地にゴルフ場や神居尻山のスキー場、テニス

コート、保健休養施設などのリゾート

地区を二〇〇七年までに完成させる、

道条例に基づく同計画の環境アセス

メントに対し、道の審議会は九五年一月、「ダム湖の水質保全に万全を期す

こと」などの付帯意見をつけて手続きを終了した。が、その後も石狩市など

から利水者に対して水質保全を求める要

望が「市民連絡会」から農水省などに對して保安林の指定解除に反対する要望が出されるなど、基本的な問題は何もクリアされていない。

事業者側は、「無農薬のゴルフ場で一部は人工芝で管理する」と説明しているが、「市民連絡会」などは、

当別ダムは湛水面積が広く、水深が比較的浅い、いわゆる「皿ダム」となる。森林に覆われた火山岩地帯から流れ出た水をたたえる豊平峡・定山渓ダムは、札幌国際スキー場などを除くと開発の手はあまり入っておらず、大都市の水源としては有数の水質を誇る。が、「第三の水がめ」となる当別ダムは地質面からくる制約を抱える。

道事業団（谷守晋一・企業長）の前身となる協議会は八〇年に発足しているが、その時点での当別ダムに水源を求めるこ

とは決まっていた、という。地元住民の多くがダム計画の中身を聞くのはそれから数年後のこと。知らぬは住民はその時点での当別ダムに水源を求めるこ

かりなり」の経過をたどった。

## 水質が劣る「中栄養湖」が出現

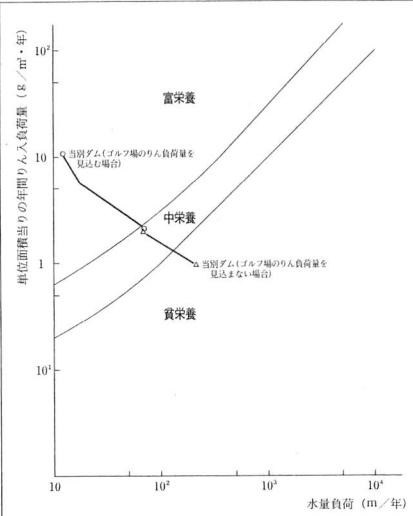


図 道が予測した富栄養化現象の予測  
「中栄養湖」に位置づけている

ダム地点の水質を豊平川水系の水道所當別ダム建設事務所。その上を沖積土や泥炭土（泥炭を含む）が覆っている地質である。

ダム地点の水質を豊平川水系の水道所當別ダム建設事務所。その上を沖積土や泥炭土（泥炭を含む）が覆っている地質である。

ダム湖の水質は、流水とは全く違つたものになることは常識だが、とりわけ水深の浅いダム湖では水質汚濁が進みやすい。最悪の場合は、ダム湖の富栄養化現象が進んで植物プランクトンが異常発生し、赤潮などが起きたりする。こうした現象は、流水の滞留に加えて、栄養塩類や有機物の流入・蓄積、日照や水温上昇などの要因によって引き起こされる。ちなみに、千歳川水系の漁川ダムでは、富栄養化による上水障害が発生したことがある。

## ダムに負荷を与えるリゾート

「ダムの奥にゴルフ場ができる、飲み水が自分たちの口に入る。今あるゴルフ場が下火になっているとき、なぜ町内六カ所目のゴルフ場を作らなければならぬのか——と思って、昨年十月中旬に会をつくり、署名運動や町議会へ陳情を始めたんです」

と話すのは、「当別くらしと水を考え

る会」代表の山田明美さんである。

「ダムの奥にゴルフ場ができる、飲み水が自分たちの口に入る。今あるゴルフ場が下火になっているとき、なぜ町内六カ所目のゴルフ場を作らなければならぬのか——と思って、昨年十月中旬に会をつくり、署名運動や町議会へ陳情を始めたんです」

と話すのは、「当別くらしと水を考える会」代表の山田明美さんである。メンバーは、ここ数年うちに札幌市から転入してきた主婦らで、太美地区の住民が多い。札幌や石狩の七団体と「当別ダム上流部のゴルフ場計画に反対する市民連絡会」もつくっている。

当別ダムの上流域ではいま、道林務部による「道民の森」づくりと一体となつた、前川製作所（本社・東京）によるゴルフ場などのリゾート開発が計画されている。水質に負荷を与えるこれからの開発行為に対しても、水道水の供給を受ける自治体や市民などからの憂慮の声が根強くある。

## 水需要などで腰すえた議論を

ダム湖で確保する予定の水道用水は有効貯水量のうちの三割を占める。広域水道事業団の計画によると、一日最大供給量は札幌市の十七万トンを筆頭に、石狩市三万九千百トン、当別町一万六百トン、小樽市六千トンの順になつ

ていて。「札幌市の水源の九八%は豊平川水系で占めており、そのウエートが高すぎて事故時に大きな打撃を受ける。石狩市では、市内に良質の河川水がなく、石狩湾新港の水確保の問題もあつた。

## ●当別ダム事業は本当に必要か



補償交渉が終盤に入っている青山地区の水没予定地

豊平川水系の水利権のうち、実際に売られているのは半分ほどにすぎない。渴水に悩まされる道外の大都市とは対照的で、恵まれた水環境である。

市水道局は、本年度の一日平均配水量の伸びを九千九百トンと見込んでいたが、この程度の伸びで推移しても既存の水利権でたっぷり余裕がある。さらに、過去の規制対策が功を奏したこともあり、地下水は比較的豊富で、飲料水以外の分野に供給できる余地も残されている。

だから、「豊平川の非常時を考えると、別水系での水源確保が大事」と主張する。だが、豊平川の治水上の課題は分かれているはず。ダムに頼らなくても、弱い個所をきちんと手当てしたり、流域の森林を復元するなど対策はいくらでも可能だろう。

「近代的な農業形態に合わせて、水田の深水かんがいのための用水確保と、老朽化した用排水路の改修を行なう」(道開発局札幌開発建設部)ために、ダム建設と並行して「国営當別地区土地改良事業」が進んでいる。事業費は五百億円。水路の整備には七%の地元負担を伴う。

この事業はいわば、ダム建設に便乗したものだ。ダムがなくても、既得水はまだ提供されていない。

水中の窒素濃度に対するリン濃度があるレベルを超えると、微生物が爆発的に繁殖しやすくなるのだが、道の環境アセス審議会では、富栄養化現象のなかめとなる藻類についての議論はなされていない。

道は民間調査会社に委託して、庶路・留萌・当別の各ダムを対象に、藻類の培養による富栄養化の予測に関する分析も行なっている。その結果、当別ダムの予測が最も悪い数値を示しているが、こうしたデータに関する情報公開は十分に行なわれていない。

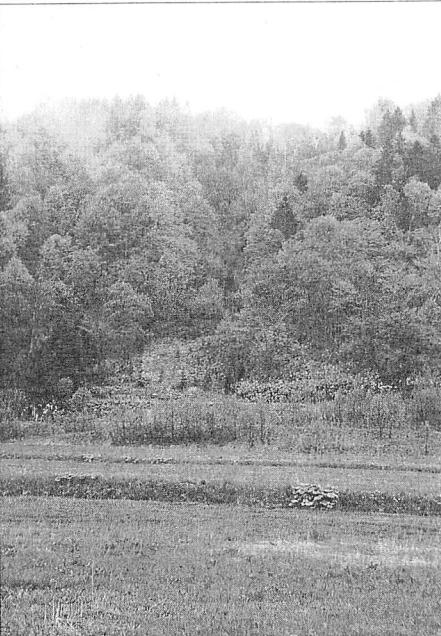
いったん巨大ダムで水がめが確保されてしまうと、道外の大都市ならどこも「時代錯誤の公共事業」のひどい象徴のように映る。

当別町では水源の当別川の水利権が少ない——という具合に、各自治体の事情があった」と、事業団は水源確保の理由を説明するが、当別ダムがないと将来の水需要は本当に逼迫するのだろうか。最大の供給先の札幌市を例みると、同市では、豊平川と琴似発寒川、星置川の三水系で日量百三万五千二百トンの水利権が設定されている。五カ所の浄水場の給水能力は七十八万五千トンほどだが、過去最大の一日配水量は猛暑だった九四年でも六十六万三千五百トンあまり。水がめには余裕があり、百トンあれば、豊平川の非常時を考えると、

でも実践している、水の循環利用や節水の機運がしほむことも大きな問題だ。水資源に恵まれた札幌市民には、水の苦労はあまりなかった。そのうえ、当別ダムで新たに確保されると、水の恩恵に対する無頓着ぶりを加速させてしまう。それでいいのか。

今年三月に札幌で開かれた「日本水環境学会」の特別講演で、北大総長の丹保憲仁氏は、二十年來の持論といふことを述べた。「人間の生理的な安全を要求する水は、限定されたある量だけ上流側の厳密に管理された保全水域から取水し、精密な処理を施して飲用水専用水道で給水する。その他の非飲用水は、下流側の大きな河川水から取り、必要に応じて高度処理した下水のリサイクル水を加え、現在の水道系を転用した一般水道で供給する」(講演集を一部要約)

わたしも大筋で、こうした水システムに賛成である。札幌圏のような大都市が進む道を行ない、過大な需要想定に沿って造られようとする当別ダム。わたしの目には、その姿が時代錯誤の公共事業のひとつのように映る。



水没地域にある地滑り地形。ダム湖にとって地滑りは泣きどころになる

THE HOPPO JOURNAL  
1997.7.

利権の拡大や独自の改良事業を選択する道もあつたはずである。

こうしてみると、ダム事業それ自体によって水利権(十七万トン)が確保されても、「水が売れるのか?」という問題はある」と「水余り」を指摘する声がある。これでは税金の無駄遣いを評価を加える時期ではないか。

当別ダムは「第三の水がめ」が最大の建設目的である。リゾート絡みで起きている水質論争は、事業者と水の供給を受ける幅広い市民との間で、もつと議論を深めるべきだろう。

富栄養化の問題についても、判断材料はまだ提供されていない。

THE HOPPO JOURNAL  
1997.7.